

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

1 職務の理解 (6 時間)

○到達目標・評価の基準 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
① 多様なサービスの理解	3時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）とそれ以外（障害者（児）サービス等）について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を踏まえ、施設の紹介映像（視聴覚教材）を利用して理解を深める。 ・介護、福祉、医療施設の種類を一覧表にまとめる。受講生の自宅近郊にある施設は、各施設の種類の違いに分類されるかを調べて一覧表に書き加える。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<p>【講義】 ・多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材を活用して理解を深める。 ・ケアプランに始まるサービス提供にいたるまでの一連の流れ、チームアプローチ、多職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービスの提供についてイメージを持たせる。</p> <p>【実習（見学）】 ・近隣の介護老人保健施設を見学し、介護職の具体的なイメージを持って各科目の学習に取り組めるようにする。 (1 時間)</p> <p>【演習】 ・グループに分かれ、見学した施設についてどの類型に当てはまり、どのような人が利用できるか等「入所施設」について理解を深める。</p>
合計	6時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）

○到達目標・評価の基準

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。

・虐待の定義、身体拘束、及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
				通信課題の概要
① 人権と尊厳を支える介護	6時間	1	5	<p>【講義】 ・利用者の自立と自律、相互依存と共生、ノーマライゼーション、QOLなどの概念について概説する。利用者の尊厳のある生き方と介護との関連を概説する。</p> <p>【演習】 虐待、身体拘束、プライバシー侵害、利用者の尊厳を損なう介護職員の言動などの具体例を示し、その背景にある状況や介護者の心理についてグループディスカッションを行い、各々レポートにまとめる。</p> <p>【通信課題の概要】 人権と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度（個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業）について</p>
② 自立に向けた介護	3時間	0.5	2.5	<p>【講義】 介護における自立・自律支援、残存能力の活用、個人のニーズと生きがい及び介護予防の考え方について、テキストの事例をとおして概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 自立支援とはどのような支援か、残存能力の活用、意欲を引き出す支援、個別性/個別ケア、重度化防止、介護予防の考え方、介護予防施策について</p>
合計	9時間	1.5	7.5	

3 介護の基本（6 時間）

○到達目標・評価の基本

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。

・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
				通信課題の概要
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	1	1	<p>【講義】 介護に関わる職種（異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担）について概説する。</p> <p>【演習】 事例紹介の中で、看護師、栄養士、理学療法士等が果たす役割を受講生が列挙した後に、介護職に求められる専門性の特質について討議する。</p> <p>【通信課題の概要】 介護環境の特徴（訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性）について、介護の専門性（重度化防止・遅延化の視点、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチーム）について。</p>
② 介護職の職業倫理	1時間	0.5	0.5	<p>【講義】 職業倫理について、専門職の倫理の意義、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重に関して概説する。</p> <p>【演習】 職業倫理に関わる講師の体験例を紹介した後に、受講生が各々の自分の体験による倫理観の変化について省察して文章化する。</p> <p>【通信課題の概要】 介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重について</p>

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
③ 介護における安全の確保と リスクマネジメント	2時間	1	1	<p>【講義】 介護における安全の確保、リスクマネジメント全般について概説する。事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、情報の共有、感染対策について概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 介護における安全の確保（事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード）、事故予防・安全対策（リスクマネジメント、分析の手法と視点）、感染対策について。</p>
④ 介護職の安全	1時間	0.5	0.5	<p>【講義】 介護職自身の心身の健康管理について、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識について概説する。</p> <p>【演習】 講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。</p> <p>【添削課題の概要】 介護職員の心身の健康管理（メンタルヘルスケア、腰痛予防、感染症対策）について。</p>
合計	6時間	3	3	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）

○到達目標・評価の基本

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護保険制度	3時間	0.5	2.5	<p>【講義】 介護保険制度の動向（予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進）について、及び介護保険制度の仕組み全般についてそのポイントを概説する。</p> <p>【演習】 ・制度に関わる基本的な用語について練習問題を解いて知識の確認をする。</p> <p>【通信課題の概要】 介護保険制度創設の背景と目的、動向、ケアマネジメントについて、介護保険制度の仕組み（保険制度の仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定とその手順など）について。制度を支える財源、組織、団体の機能と役割（財政負担、指定介護サービス事業所の指定）について。</p>
② 医療との連携とリハビリテーション	3時間	0.5	2.5	<p>【講義】 リハビリテーションの理念を概説する。また、介護現場においてリハビリテーションに携わるスタッフの役割を概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念について</p>
③ 障害者総合支援制度及びその他制度	3時間	0.5	2.5	<p>【講義】 障害者福祉制度の理念、障害者総合支援制度の仕組み（申請・支給までの流れ）の基礎的理解、成年後見制度や個人情報保護法と介護業務との関わりについて概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 障害者福祉制度の理念、障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解、個人の権利を守る制度の概要（成年後見制度、生活保護法、日常生活自立支援事業）について。</p>
合計	9時間	1.5	7.5	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）

○到達目標・評価の基本

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
				通信課題の概要
① 介護におけるコミュニケーション	3時間	1.5	1.5	<p>【講義】 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について、ケア（配慮）、傾聴、共感の概念を含めて概説する。コミュニケーション技法、道具を用いたコミュニケーションについて概説する。</p> <p>【演習】 コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイをとおして学習する。</p> <p>【通信課題の概要】 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、技法について、利用者・家族とのコミュニケーション、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際について</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1.5	1.5	<p>【講義】 記録における情報の共有化（介護における観察・記録の重要性、介護に関する記録の種類、個別援助計画書、ヒヤリハット報告など、5W1H の意義、ケアカンファレンス）の重要性を概説する。</p> <p>【演習】 DVD の介護場面を見て「観察」「記録」を実際に行う。</p> <p>【通信課題の概要】 記録による情報の共有化、報告・連絡・相談、コミュニケーションを促す環境について</p>
合計	6時間	3	3	

6 老化の理解 (6 時間)

○到達目標・評価の基本

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3時間	1.5	1.5	<p>【講義】 老化に伴う心身の機能変化（日常生活への影響について、咀嚼機能の低下その他心身機能の変化）を中心に概説する。</p> <p>【演習】 加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出す。加齢とともに起きるところとからだの変化の一覧表作りを行い、理解を深める。</p> <p>【通信課題の概要】 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、及び日常生活への影響について</p>
② 高齢者と健康	3時間	1.5	1.5	<p>【講義】 高齢者のかかりやすい疾病と生活上の留意点（骨折、筋力低下、循環器障害と対策、うつ病等の精神疾患、誤嚥性肺炎など）について概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点について</p>
合計	6時間	3	3	

7 認知症の理解(6 時間)

○到達目標・評価の基本

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	1時間	0.5	0.5	<p>【講義】 認知症ケアの理念（パーソンセンタードケアなど）の視点、基本的な関わり方を概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 認知症ケアの理念、認知症の人の世界の理解と関わり方について</p>
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	1	1	<p>【講義】 認知症の概念、加齢による物忘れとの違い、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動・口腔ケア・薬物療法等）の方法について概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 認知症の定義、認知症の原因疾患とその病態、せん妄の症状、認知症のアセスメントについて</p>
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	1	1	<p>【講義】 認知症による生活障害、心理・行動の特徴、心理状態、不適切なケアについて、適切なケアの具体的な方法、コミュニケーションの方法、認知症の進行に合わせたケアの方法を概説する。 【演習】 様々な認知症の症状に対し、どのようなケアが考えられるかを討議する。 【通信課題の概要】 認知症の中核症状と周辺症状、認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応について</p>
④ 家族への支援	1時間	0.5	0.5	<p>【講義】 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）について概説する。</p> <p>【演習】 事例を提示して、どのようなレスパイトケアの方法があるか討議する。</p> <p>【通信課題の概要】 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減について</p>
合計	6時間	3	3	

8 障害の理解 (3 時間)

○到達目標・評価の基本

障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

項目名	時間数	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
				通信課題の概要
① 障害の基礎的理解	1時間	0.5	0.5	<p>【講義】</p> <p>障害の概念と ICF (ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方)、ノーマライゼーションについて概説する。</p> <p>【通信課題の概要】</p> <p>ICF (ICF の分類と考え方)、障害者基本法、ノーマライゼーションとは何かについて</p>
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	0.5	0.5	<p>【講義】</p> <p>身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の心身の機能障害について概説する。</p> <p>【演習】</p> <p>実際の症例について ICF を用いて情報を整理し、活動・参加への具体的なアプローチ方法を立案する。</p> <p>【通信課題の概要】</p> <p>視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害などについて</p>
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	1	0	<p>【講義】</p> <p>利用者の家族への支援方法、家族への支援における、障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減について概説する。</p>
合計	3時間	2	1	

10 振り返り (4 時間)

○到達目標・評価の基本

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	3時間	【講義】 ・今まで学習してきたことを科目ごとに振り返り、総復習を行う。講師との質疑応答を行って、理解不十分な点の見直しと学習を行い、更に習得を深めていくよう指導する。 【演習】 ・グループで介護職としての身だしなみ、言葉遣い、態度について振り返る。介護職が身につけるべき知識や技術の体系を示して、実習中の気づきに結びつける。今後のキャリア形成について見通しを持つ。
② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	【講義】 ・今後介護職を続ける上で継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介する。 【演習】 ・グループで就業後に必要な研修の在り方について話し合う。一人ひとりのスキルアップを目指す意思を発表する
合計	4時間	